

府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会
第5号
2021年2月26日発行

第40回 研究集会のご報告

今回は、書面とWebで現在開催中の第40回研究集会の報告をします。
お申し込みは3月12日（金）まで受け付けていますので、ぜひ事務局までご連絡ください。

今年度は事務局としても試行錯誤の年でしたが、多くの方に研究交流活動に参加していただくことができました。ありがとうございます。来年度もみなさまにお会いできることを楽しみにしています！



第40回 研究集会 開催概要

1. 申し込み期間 2020年12月22日（火）～2021年3月12日（金）
※【参加申込書】に必要事項を記入の上、メールまたはFAXでお申し込みください。
2. 動画配信期間 2021年1月22日（金）10時～2021年3月30日（火）17時
3. 資料代 1,000円
※ 所属校宛にお送りする請求書に記載された振込先にお支払いください。

講演①

マイクロアグレッションとレイシズム ～日常に潜む見えない差別・排除～

講師：金友子さん
(立命館大学 国際関係学部 国際関係学科 准教授)

マイクロアグレッション「Micro（微細な）＋Aggressions（攻撃）」は、だれもが加害者、被害者になり得る形の差別であり、日常のやりとりの中で無意識に起こっているために問題視されにくい。しかし、マイクロアグレッションを放置することで差別が助長され、ヘイトクライムやヘイトスピーチなどの差別行為を引き起こしている。

マイクロアグレッションは何が問題なのか？ それは、たとえ悪意がなくても隠されているメッセージがあることである。自分が属している集団については「人によって異なる」と知っているが、自分が属していない集団に対しては「みんなそうである」と思い込み、マイクロアグレッションをおこなっている。無自覚に行う「けなし」は、行っている人には一度きりではあるが、それを受ける側は多数から

マイクロアグレッションの作動



継続的に受け続け、少しずつ蓄積していくことで、心身の健康に害が及ぶとお話しいただいた。

マイクロアグレッションを防止するには、自分の「普通」を疑い、学び続けることが大切である。我々教職員ができることは、普段の何気ない会話がマイクロアグレッションになっていないか、間違った表現が使用されたときに、その問題に対し、その都度対応し、指摘し、対話していくことである。自分の「普通」を疑い、ニュートラルな観点を持つ姿勢を身に付けるために、継続して人権研修を行う必要性を感じた。

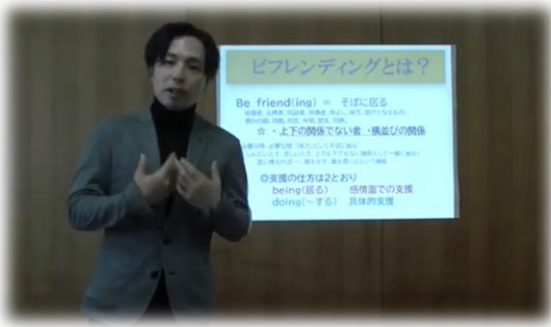
講演②

子どものいのちを守る

～自死の現状と防止について考える～

講師：北條達人さん

(認定 NPO 法人 国際ビフレンダーズ
大阪自殺防止センター 理事長)



10代の自死の原因、動機は分かりにくい。そのため、どう対応したらよいか、学校現場は不安を抱えている。その不安を解消する一助となる講演であった。

まず、先入観で決めつけないことが大切である。「命の大切さ」を教えることで自死がなくなるとは限らない。むしろ「命を大切に思うからこそ生きていけない」ケースもあるからである。リストカット等の自傷行為は「生きるために切っている」場合もあり、理由も本人にしか分からないことが多い。

相談を受ける側にとって、大切なことは「死にたいと思う気持ちをも受け止める」ことである。そうすると「死にたい気持ちを相談してもいいんだ」と思えるようになる。相談を受ける側は「ビフレンディング」(be-friend-ing、横並びの関係でそばに居ること)と「傾聴」(事実ではなく感情に焦点を当てて悩みを聴くこと)が大切である。そして、相談に対して必ずしも答えを出す必要はなく、否定も肯定も評価もアドバイスも安易な励ましも不要である。

また、自死について意思をはっきり問うことは、ためられる向きもあるが、問うことでその気持ちに向き合うというサインを出すことになる。相談する側は、心配に思うことを口に出すことで、誰かに受け止めてもらえたという安心感を得られる。心の問題には答えがないことが多いからこそ、因果律に縛られず、共感的でいて、かつ冷静な視点が大切である。

講師は、最後に学校の教職員へ「先生自身が自分を守る」ことの大切さも教えてくださった。ぐっど心に染み込む温かいものを感じた講演であった。

報告および講演③

コロナ禍で明らかとなった
日本の人権をめぐる状況
～コロナ対応で何が明らかとなったのか～

報告：府立人研 教材部会

講師：北口末広さん

(近畿大学 人権問題研究所 主任教授)

前半は、府立人研教材部会から、11月に開催した研究部会「コロナ禍の中で教職員が生徒に対して何を語るか」についての報告があった。日本赤十字社作成「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」をバージョンアップし、自分や周囲の人が感染した時のことを

考えたり、「自粛ポリス」について考える福井高校の教材、いろいろな人の気持ちや事情を考慮した言動がとれるように考える柴島高校の教材、研究部会での交流から着想を得て新たに作成したという堺西高校の教材。いずれの教材も、学校の状況に応じて、コロナ禍で起こっている事象を「自分ごと」の人権問題としていかに生徒に捉えさせるかに迫っており大変参考になった。

後半は、近畿大学 人権問題研究所 主任教授の北口末広さんより、「コロナ禍で明らかとなった日本の人権をめぐる状況 ～コロナ対応で何が明らかとなったのか～」と題して講演があった。感染者や

エッセンシャルワーカー（生活必須職従事者）への差別の実態や、差別が症状や死者数にあらわれ、医療格差や貧困と関係していることなどを多様なデータを検証しながら分析されていた。また、不安心理がフェイク情報を拡散し新たな偏見や差別を生み出している実態と、偏見の存続要因を克服するための課題を明らかにされた。「パンデミック」は「インフォデミック」でもあったのだ。事実に基づかない固定観念が偏見・差別を拡大することは、あらゆる人権問題に共通するものであり、正しい情報を読み解く力の育成が人権教育につながるの思いを強くした。

◆◆◆事務局員のつぶやき◆◆◆

私たちの社会は、「ジェンダー平等」がまだまだ実現していない社会であることが、今回の東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の元会長による女性蔑視発言で明らかとなりました。同時に、国内からもすぐに批判の声が大きく起こったように、「ジェンダー平等」社会の実現に向けて着実に進んでいることも明らかとなりました。このように、日々少しずつではありますが、人権意識は着実に向上しています。コロナ禍で表出した差別意識も踏まえ、今こそ「差別の現実から深く学び」、「差別とは何か、なぜ差別があるのか、なぜ差別は生み出されるのか」をみんなで議論し、「今ここにある問題」として取り組んでいくことが、私たちの社会に求められているのです。

今年度も多くの方に府立人研の行事にご参加いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、2020年度はコロナ禍で異例づくめの1年間でした。例年以上にこなすことが多くなり、お疲れが出ている人もいるのではないのでしょうか？事務局も延期していた行事を秋以降、立て続けに実施することとなり、息つく間もない時期もありました。ですが、府立人研の活動を通じて新たに知り合えたさまざまな校種の教職員の方々から大きく刺激を受けた年でもありました。その中で一番考えたことは「教育とは何か」です。生きづらさが蔓延する社会で、そこに適応できる子どもを育てるのではなく、そんな社会を変えていける子どもを育てることこそが大事なのではないかと思います。日々の取り組みの中で少しずつですが実践中です。

そして次年度の府立人研の活動に関わってくださる方を大ボシュウ中です！人権のこと、教育のこと、生徒のこと、みんなで意見を出し合って考えていけたら、きっと楽しいはず！あなたの登録をお待ちしています♪

<2021年度前半のおもな予定>

春季研修会及び総会
5月7日（金）

夏季セミナー
7月28日（水）・29日（木）

府立人研スタッフ募集!

府立人研では、ともに研究交流活動を進めてくださるスタッフを募集しています。研修の企画や行事当日の運営をお願いしています。いろいろな人とのつながりができたり、現場での悩みや実践に役立つ情報交換もできます。

ご関心のある部会やチーム
に参画していただけます。
詳しくは府立人研事務局へ
ご連絡ください。

現場での経験から、あなたも一緒に考えていきませんか?



【研究部会、地域交流部会、教材・資料開発プロジェクトチーム一覧】

研究部会

- 教材部会…………… 人権学習の実践や人権教材を持ち寄り、学びや交流を深める部会です。
ケーススタディ部会… 生徒に起こりうる事例について検討・相談する部会です。
進路保障部会…………… 進路実現のための事例を検討し、考える部会です。

地域交流部会

- 豊能、三島、大阪市内北、大阪市内南、北河内、中河内、南河内、泉北、泉南の地域ごとに企画を考え、特に同じ地域の幼保小中高支援での交流を図ることも行っています。

教材・資料開発プロジェクトチーム

- 自主活動育成 …………… 生徒が人権課題について研究、発表等を行うヒューマンライツフォーラム(HRF)の企画づくりのサポートをします。
障がい者教育 …………… 障がいのある生徒への支援や他の生徒との関わりについて考えます。
情報と人権 …………… 教育現場におけるネット・スマホ利用の問題などについて調査・研究します。
進路調査・奨学金…………… 奨学金制度に関する情報交換や校内における説明会、クラス HR のあり方を考えます。
性差別撤廃教育 …………… 性差別や多様な性のあり方と当事者生徒への配慮を考えます。
多文化教育 …………… 外国につながる方々の思いや社会の課題を知り、学校に何ができるかを考えます。
定通教育 …………… 定時制・通信制の取り組みや生徒の実態について情報交換をします。
ファシリテーション工房… 主体的・対話的な学びの実践方法について研究します。
部落問題学習 …………… 部落問題学習の教材や実践について研究します。
若手工房 …………… 経験年数の少ない教職員を主な対象とした企画を実施します。

府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島 1-7-106 府立柴島高等学校内
(郵便便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-mail furitsujinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくEメールをご利用ください。)

URL <http://furitsujinken.in.coocan.jp/>



↑府立人研 HP も
チェックしてくださいね

「府立人研通信」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。